

プロゲステロン Progesterone

●ルティナス(フェリング・ファーマ)  
錠剤：100mg

ポリエチレン製アプリケーター付

[特] a.体外受精後の妊娠維持。

b.プロゲステロン(黄体ホルモン)を補充し、  
流産・月経を防止する。

c.これまでは、筋注を適応外で使用。

d.患者自身が、子宮内に送達できる。

[効] 生殖補助医療における黄体補充

[用] a.1回100mgを1日2回～3回腔内挿入。

採卵日(又はホルモン補充周期下での凍結胚移植ではエストロゲンで子宮内膜が十分な厚さになった時点)から最長10週間(又は妊娠12週まで)。

b.内服しない。

[体内動態] a.反復投与で血中ピーク

時間は18時間、濃度は18～23ng/mL。

b.代謝(肝：50%、肝外：50%)

c.代謝物の50～60%は腎排泄、  
10%は胆汁排泄(一部は腸肝循環)。

[禁] 1.診断未確定の性器出血、

2.稽留流産又は子宮外妊娠、

3.肝機能：重度に禁忌、  
中等度以下は慎重に。

4.乳癌又は生殖器癌の既往歴又は疑い、

5.動脈又は静脈血栓塞栓症あるいは  
重度の血栓性静脈炎又は既往歴、

6.ポルフィリン症。

[真] 1.てんかん、うつ病・既往歴、

うつ病・既往歴で→悪化時は中止。

2.片頭痛、喘息又はその既往歴、

3.心機能障害又は腎機能障害、

4.糖尿病、

5.35歳以上の喫煙者でアテローム性  
動脈硬化症の危険因子を保持。

[注] 1.新生児に胎児性形成異常の報告、

2.中止で不安、気分変化、発作感受性増、

3.自然流産、子宮外妊娠の報告。

[患] 1.授乳中は投与しない。

2.傾眠状態や浮動性めまい

→車の運転等危険作業は注意。

[併]B.慎：他の腔剤(抗真菌剤等)で本剤の作用が増強又は減弱(プロゲステロン放出及び吸収を変化)。

[副 8%]A.重大：血栓症(心筋梗塞、脳血管障害、動脈・静脈の血栓塞栓症、肺塞栓症)、血栓性静脈炎、網膜血栓症)

C.減量・休薬：頭痛、傾眠、浮動性めまい、不眠、疲労、胃部膨満、下痢、便秘、腹痛、悪心嘔吐、蕁麻疹、発疹、過敏反応、性器出血、子宮痙攣、腔真菌症、乳房障害、陰部そう痒、肝機能異常、末梢性浮腫。